



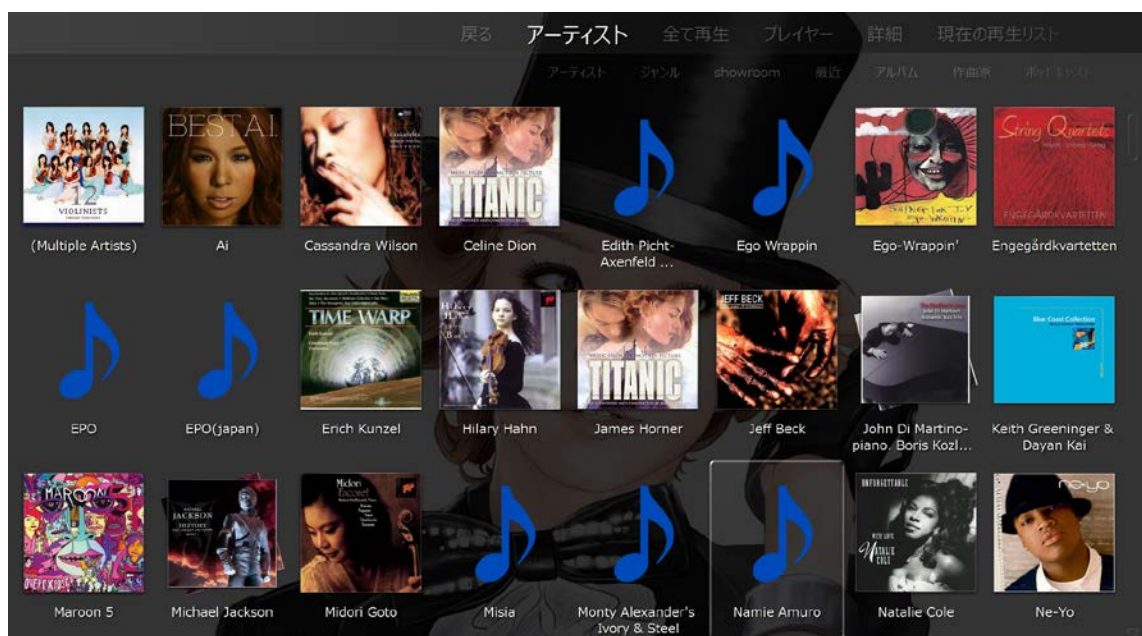
基本使用説明書

JRiverMC24 編



② JRiver Media Center 24

JRiver Media Center は、PCM 384kHz/32bit から DSD1024 に至るハイレゾ 2 音楽 4K UHD、ドルビーデジタル、7.1ch 対応などの動画、CD を PCM384kHz にアップサンプリングしたり DSD に変換し視聴したり、DLNA 対応機器に対してライブラリーリーダーをストリーミング配信することも可能です。音楽だけでなく、動画、静止画のリアルタイムフォーマット変換も可能です。また MC24 ではローカルコンテンツだけでなくストリーミングにも対応し、Spotify や Netflix などの有償サービスを登録しシームレスに MC 24 にて視聴が可能となりました。



DMP として使用する

① プレイヤーとして音楽を聞く。

[ファイル][メディアファイルを開く...] でウインドウが開き、目的の音楽ファイルのあるフォルダーに移動し、音楽ファイルを選択することで直接目的の曲を聴くことができます。

。

② ライブラリーを登録する

1. AVC モデルは、D:ドライブがメディアファイルの保存先に設定されています。D:ドライブに保存したファイルは自動的に JRiver のライブラリーに反映されます。新たなライブラリーのインポートの設定は必要ありません。

* JRiver を新規インストールした場合は、自動スキャンで PC 内のデータが登録されますが、通常はミュージックフォルダが設定されます。データを管理するためにも、ドライブやフォルダをご自身で決め管理・登録されることを推奨します。

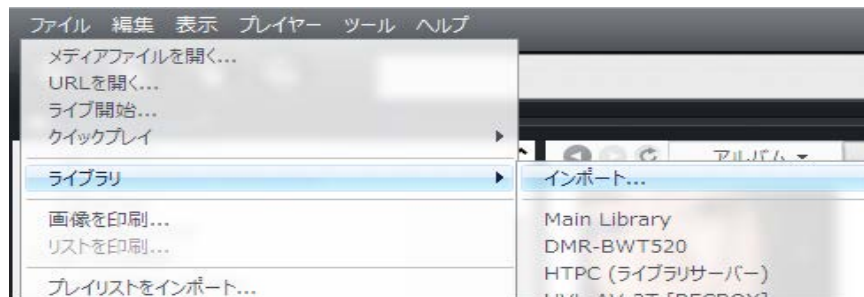
2. USB 接続した増設用 HDD や NAS のデータをスキャンしてライブラリーに登録する場合は、[ファイル][ライブラリー][インポート]から[自動インポートを設定]を選び、フォルダを指定し、タスクを選択してデータをインポートします。この場合は曲数極端に多い場合や分析オプションを選択すると非常に時間を要します。読み込んだデータはメインライブラリーとして登録され、ドキュメントの JRiver フォルダに保存されます。ライブラリーはファイルの存在場所、ファイル形式や TAG 情報のみを登録しています。HDD を取り外したり、実データのフォルダーを移動や削除し

た場合、再生ができません。変更した場合はライブラリーの削除を行い、新規で登録してください。ライブラリー管理は重要です。

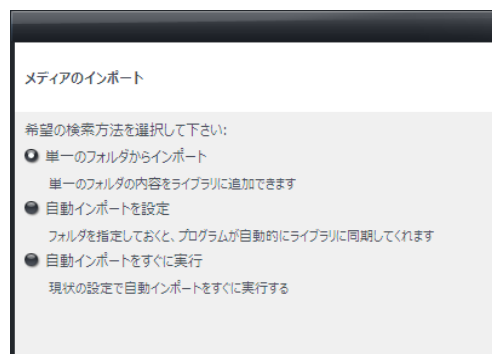
NASのネットワークフォルダーを指定することも可能です。



[ファイル][ライブラリー][インポート]を選択します。

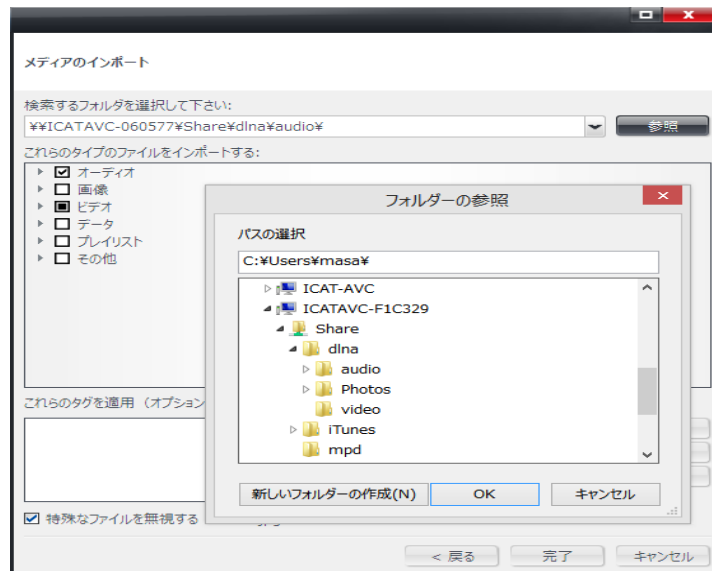


[自動インポートを設定]をチェックし[次に]をクリックして進みます。

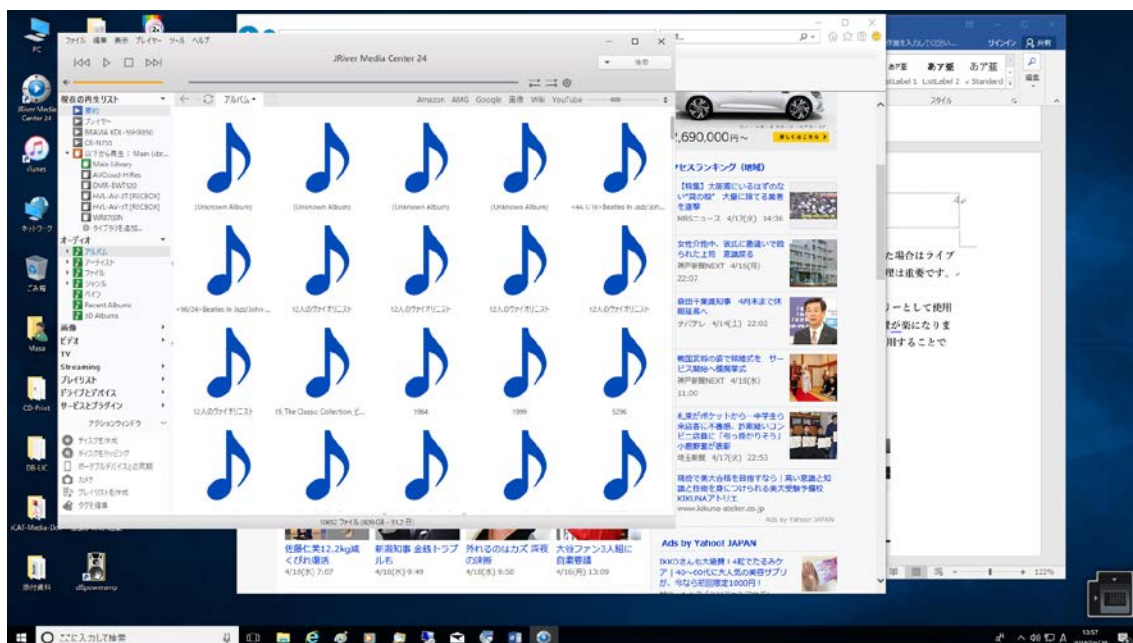


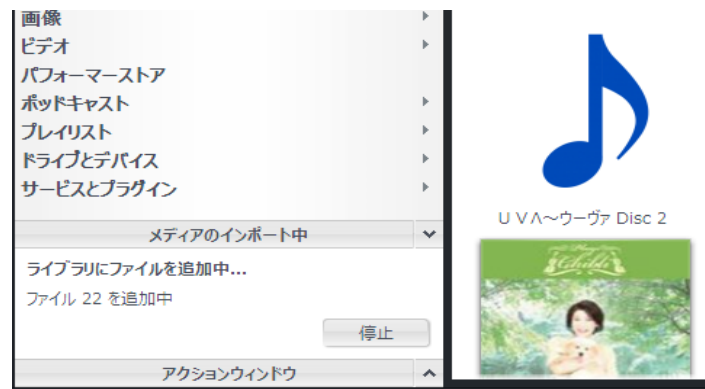
NAS 上のフォルダを指定します。

登録するデータを音楽のみとする場合は、オーディオのみチェックを入れます。



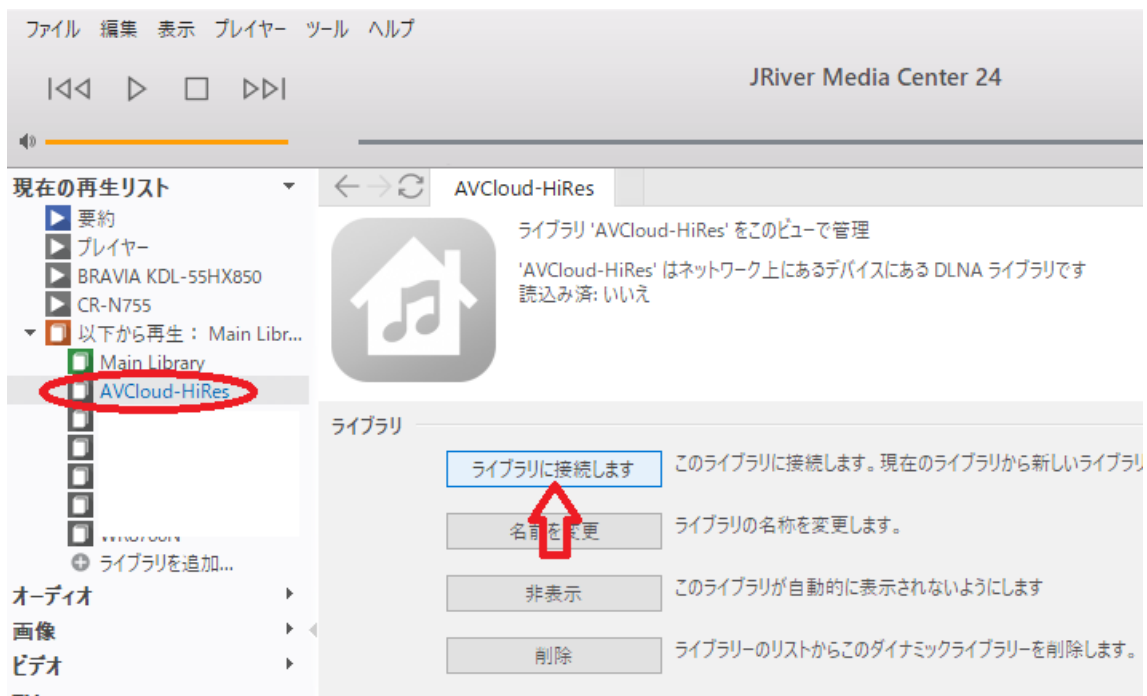
例では、AVCloud の /share/dlna/audio の中の音楽フォルダを全てライブラリーに登録します。検索するフォルダのパスを確認して[完了]をクリックします。登録が始まるとウィンドウ左下に[ライブラリーにファイルを追加中]と表示し、登録中のファイル数を表示します。





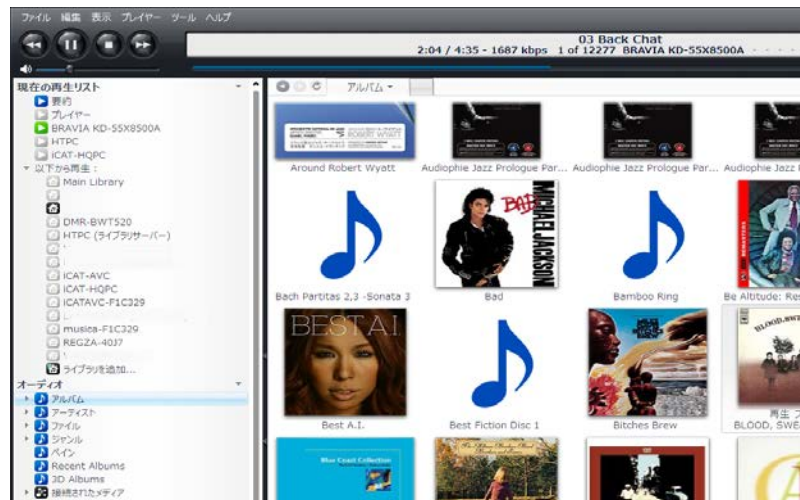
3. Main ライブラリーとして、PC の HDD やネットワークフォルダを管理するのではなくライブラリー管理を NAS 側に委ねることが可能です。管理が楽になり、JRiver に最適化された iCAT NAS を用いることで音質も向上し、dBpoweramp の持つ多くの TAG 情報にも対応可能です。

以下から再生で、AVCloud-Hires を選択し、[ライブラリーの接続します]をクリックします。1TB のデータが NAS に入っても数秒で JRiver に反映されます。この場合、音楽データは NAS に転送するだけです。



③表示

登録が終了した後、左メニューから[オーディオ][アルバム]をクリックすると下図の様に a アルバムジャケットが表示されます。



アルバムをクリックするとジャケット下部に[再生][ファイル]と表示されます。[再生]をクリックするとアルバム全曲の再生が始まります。[ファイル]をクリックするとアルバム内の曲リストが下部に表示され、聞きたい曲だけをアルバムから選んで再生出来ます。アーティスト、ジャンルなどカテゴリー単位で表示することができます。

ライブラリー登録後、[表示][シアター表示]を選択することで、全画面表示となります。その他多彩な表示方法があります。



シアター表示の TOP 画面 (Linux 版は現在未対応です)

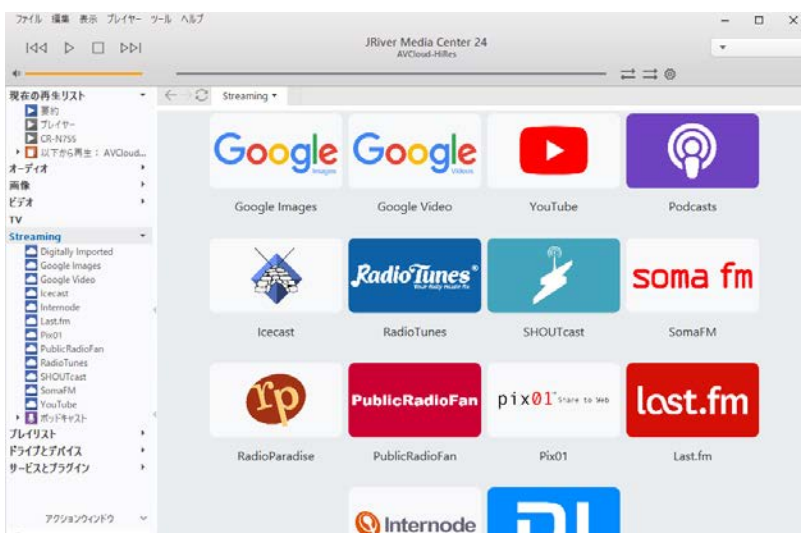


オーディオの TOP 画面

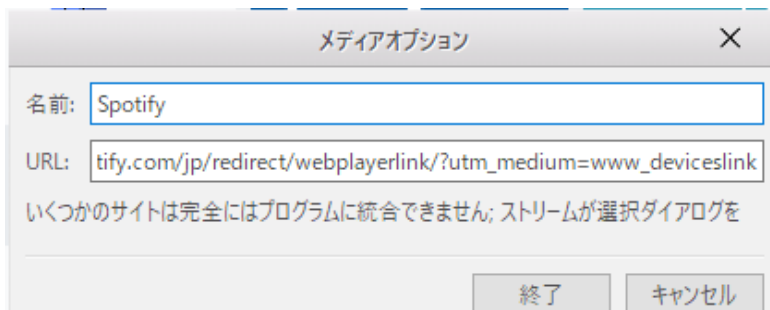


④ 高音質・高画質ストリーミング放送を聞く、見る (現在 Linux 版未対応)

JRiver MC24 では、Streaming が追加されました。無料ストリーミング放送が設定されており FLCA192KHz の音楽を聴くことができます。有償サービスである Spotify や Netflix を登録することで組み込むことが可能です。音楽・映像をシームレスに視聴可能です。



追加方法は、Streaming の文字上で右クリックしメニューで WEB サイト追加をします。Spotify の場合は、名前に Spotify URL には、ブラウザから Spotify にログインしウェブプレイヤーを起動して、ブラウザで再生可能な状態で、ブラウザに表示される URL をカット&コピーで入力します。



サービスとプラグインからは HDtracks, Amazon, CD Baby, Audible, などの試聴やダウンロード購入も可能です。CD からハイレゾ、高音質化に向けたストリーミング放送の時代へのサービス対応が可能となっています。

⑤ ドライブとデバイス (Linux 版では使用できません)

内蔵 HDD、USB-HDD、USB メモリ、NAS、ストリーミングの音楽や映像を再生する以外に、CD の再生、リッピング、書き込み、DVD 再生や iPhone、スマートフォンなどのモバイルデバイス上の音楽、映像の再生が可能です。*機種により PC とスマホの連携ソフトのインストールを必要とします。

音楽 CD をドライブに入れることで次の画面が開きます。



[CD 再生] を選択し、終了をクリックすると音楽再生がスタートします。

曲名等は、TOP 画面のドライブとデバイスを選択することで表示されます。

[CD をリッピング] を選択するとリッピングがスタートします。

DMC として使用する

JRiver Media Center は DMC (Digital Media Controller)として機能します。

⑥ リモコン操作

これまでは、キーボード、マウスを用いて PC としての操作方法を説明しましたが、他の PC やスマートフォン、タブレットからの操作も可能です。PC もしくはタブレットのブラウザを起動し、[<http://avcloud:52199>] とブラウザで入力します。*JRiver が起動している PC の IP アドレスを入力して接続することも可能です。IP アドレスが 192.168.0.30 の場合は、[<http://192.168.0.30:52199>] と入力します。ブックマークしておく便利です。 ブラウザーに次の画面が表示されますので、WebGizmo をクリックします。

次の画面で[クリックして開始]をクリックします。

次の画面で音楽を再生するプレイヤーを選択します。

iCAT HTPC,HQPC とともに DMR(Digital Media Renderer)として機能します。

この例では、iCAT-HQPCで再生します。
iCAT-HQPCをクリックすると下図の画面に移ります。
オーディオをクリックするとホルダーが開きます。

アーティストを選択するとアーティスト別のアートワーク表示になります。

アーティストのジャケット画像をクリックすると曲のリストが表示されます。

再生する曲をクリックすると再生が始まります。

⑦ JRiver Media Center のメイン画面で再生機器をコントロールする。

メイン画面で再生可能な DMR(Digital Media Renderer)と DMS(Digital Media Server)が表示されます。どの DMS (NAS) の音楽をどの DMR (レンダラー) で再生するかをコントロールすることが出来ます。同時に複数のレンダラーをコントロールする事も可能です。

この例では、iCAT-AVC サーバー内の DSD の曲を PCM 変換して、DSD 非対応の 4KTV から音楽を再生します。

JRiver MC を DMS として活用する

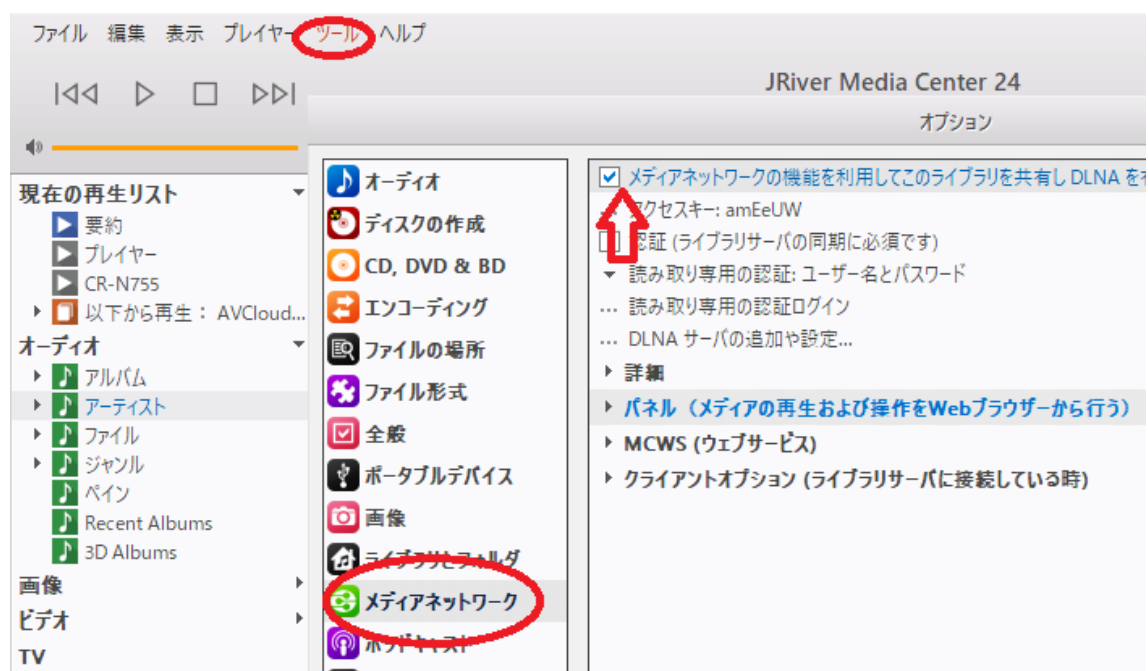
⑧ DLNA サーバーを起動

[ツール][オプション]からメディアネットワークを選択し、[メディアネットワークの機能を利用してこのライブラリーを共有し DLNA を有効にします]にを入れます。

設定が完了すると、アクセスキーが表示されます。

このアクセスキーは、JRemote からコントロール際のアクセスキーとなります。

この機能を起動することで、他のネットワーク機器に DLNA サーバーとして配信が可能となります。ただしこの機能で配信できるライブラリーはメインライブラリーのみとなります。



JRiver MC をツールとして活用する

⑨ JRiver MC はリッピングソフトウェアとして、使用することができます。

CD からダイレクトに各種音楽フォーマットでダイレクトリッピングが可能です。

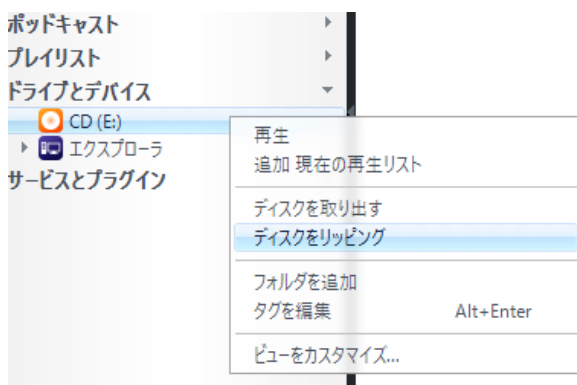
特に、DSD でのリッピングは他にはない機能です。対応しているフォーマットは次の通りです。

AIFF, ALAC, DSD, DSD5.6, FLAC, APE, MP3, MPC, OGG, WAV, WMA

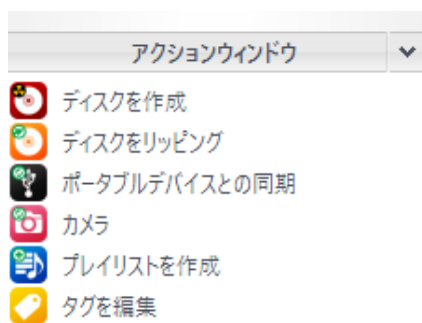
設定は、オプション [CD] および[エンコード]から行ってください。初期値はFLACです。保存先フォルダーは[ファイルの場所]で指定してください。

エンコーダーの種類（音楽フォーマット選択）は予め[オプション][エンコーディング]で設定しておくといいでしょう。リッピング時に指定することもできます。

CD からだけではなく、ライブラリーのアルバムのデータをファイルフォート変換で再変換することも可能です。



トップメニューのドライブとデバイスでCDにカーソルを置いて右クリックすることでリッピングが可能です。同様にアクションウィンドウからリッピングや音楽CDの作成も可能です。

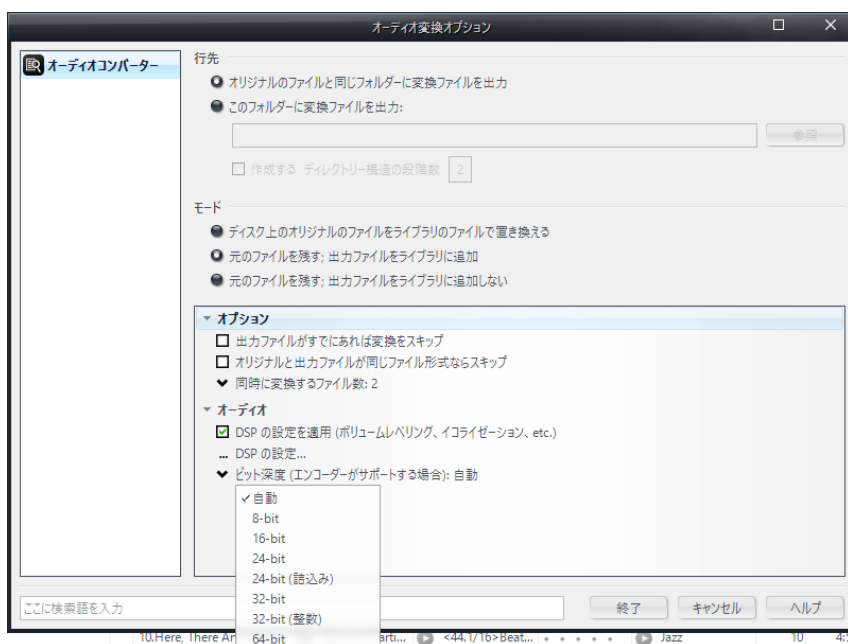


音楽CDはディスク作成を選び、アルバムジャケットや曲単位で下図の↓にドラッグ&コピーして、書き込みをクリックすることで作成できます。DVD,DATA,ISO フォーマットに対応しています。Windowsのエクスプローラーからのドラッグ&コピーも可能です。



CD ディスク作成時やファイル変換時にオプションの設定で、DSP スタジオの補正効果を反映したり、ビット深度をエンコーダーが対応する場合設定ができます。

例えば、多数のアルバムから好きな曲の音楽 CD を作成する場合、DSP スタジオでボリュームレベリングを有効にして再生時の音量を調整したり、テスト用に 64bit 深度の AIFF ファイルを作成したりすることが可能です。もっとも 64bit 深度の AIFF は JRiver で再生はできず 24bit 深度までが再生可能範囲です。



(Linux 版はドライブとデバイスは対応していません)

Linux 版で CD を聞く場合

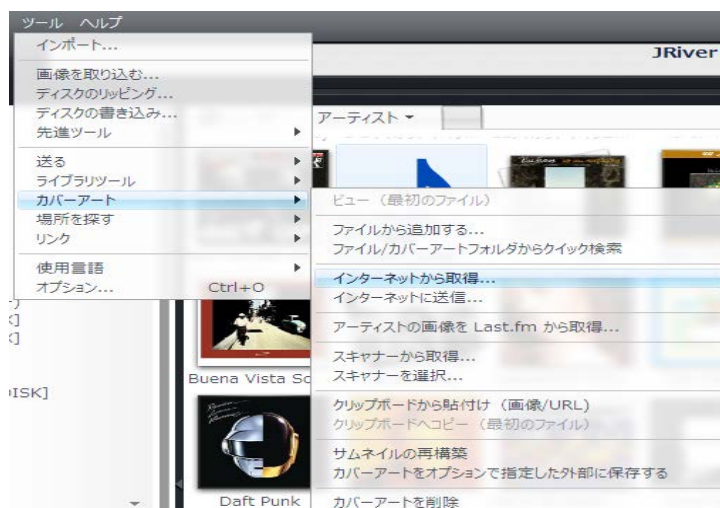
CD を聞く場合は、CD をドライブにセットし[ファイル][メディアファイルを開く...]の場所からオーディオディスクを選んで[開く]をクリックしてください。再生が始まります。また、[ツール][ポータブルデバイス]で、デバイスの追加[デバイスパス]でデバイス名を CD-ROM、パスに参照からオーディオディスクを指定し登録することで、[ドライブとデバイス]に CD-ROM として登録され、直接再生も可能となります。

Linux 版で CD のリッピング および音楽ファイルフォーマット変換する場合

CD の音楽をライブラリーに取り込む際は、[ツール][インポート]にて[単一のフォルダーからインポート]でオーディオディスクを指定することでライブラリーに登録が可能です。ただし、音楽ファイルそのものをリッピングして取り込んだわけではありません。ライブラリーに登録されたアルバムを開いて、リッピングを行いたい曲をマウスでクリックして青く選択します。全曲を選択する場合は 1 曲目を青く選択した後、シフトキーを押しながら最後の局をクリックし全曲を青く選択します。選択ができれば、曲名の上で、マウスの右クリックを行いメニュー表示させます。メニューの[ライブラリーツール]から[ファイル形式を変換]をクリックします。TOP 画面の左下がファイル形式を変換に変わります。ここで変換したいファイル形式を選んで、オプションからファイル返還後のフォルダを指定します。フォルダ内に返還後のファイルを書き込みますので、アルバム単位で保存する場合は作成するに を入れてフォルダ指定します。フォーマットの選択とフォルダ指定が終われば、[変換]をクリックします。ファイルの変換と保存が始まります。変換処理は 2 曲同時に処理するように JRiver 社で初期設定されていますが、1 曲単位に変更されたほうが早いように思えます。

使用上の利便性では、Ripping は、Audex, 音楽 CD の作成は Brasero など他のライティングソフトウェアを使用された方が簡単です。JRiver はこの CD のリッピング、ライティングに関する一連のツールとしては、音楽フォーマット変換ツールとして使用されることを推奨します。これらの機能や動画、画像に関する機能は Windows と同等とすべく JRiver 社で開発が進んでいおり、将来のバージョンで同等機能の提供が可能となります。

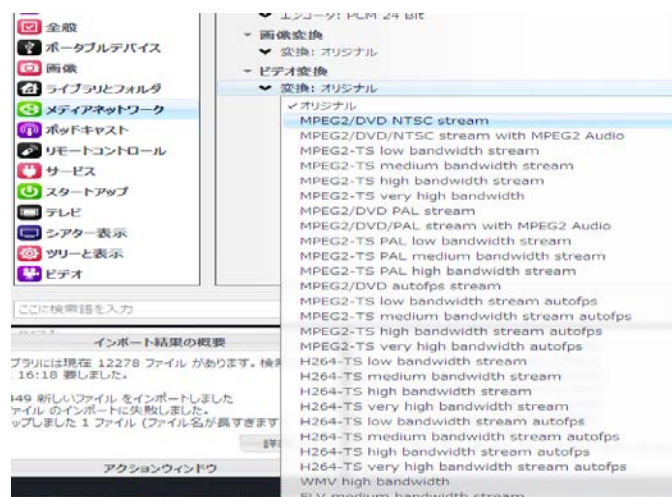
⑩ カバーアートの取得



ライブラリーに登録したファイルを選択し[ツール]、[カバーアート]、[インターネットから取得]により、ネットからカバーアートを取得することが可能です。ただし、アルバム内の全ての TAG 情報が欠如して、TRACK1、TRACK2 などの曲名しか情報がない場合は、検索と特定ができずアートワークの取得はできません。この場合 TAG 情報を手作業で入力ください。全てを選択し[インターネットから取得]を実行することで全ての曲のアートワークの再検索が可能です。新譜で登録時にはなかったデータも時間が経過することでアートワークの取得が可能になる場合があります。取得した TAG 情報を元に TAG 情報を更新することも可能です。この機能はライブラリーの管理の利便性を高めます。

⑪ オーディオ変換、ビデオ変換

動画の変換設定は[ツール][オプション][メディアネットワーク][クライアントオプション]から[オーディオ変換]と[ビデオ変換]内で設定してください。



⑫ 音声デバイス設定

音声出力先を設定するには、[ツール][オプション]から[オーディオ]を選択します。

オーディオデバイスで、音声出力先を選択します。

通常は、Direct Sound となっており、Windows の OS 側のスピーカー変更で試用切るようになっています。ASIO ドライバーをインストールし、USB DAC にダイレクトに音声出力を行いたい場合は、表示される DAC 名を指定下さい

例は、iCAT XDA-30 DAC の場合です。

XMOS USB Audio 2.0 ST 3033 (ASIO) ← XDA Driver

XMOS USB Audio 2.0 ST 3037 (ASIO) ← XDD Driver

スピーカー(2-XMOS XS1 US1-USB MFS (ST)) (WASAPI)



DSP スタジオ設定

DSP 設定は、お使いの DAC に合わせて設定する必要があります。

出力エンコーディングは、[なし]にすることで PCM 出力されます。

DSD は、お使いの DAC に応じて設定ください。

iCAT XDA-1 は Windows との接続に最適化され、8xDSD ネイティブ形式でデータを送ることが可能です。

DSP スタジオ

出力ファイル形式
 ボリュームレベリング
 アダプティブボリューム
 イコライザー
 パラメトリックイコライザー
 効果
 ヘッドフォン
 テンポとピッチ
 ルーム補正
 コンボリューション
 パラメトリックイコライザー 2
 アナライザー

リストされている順に処理されます
(ドラッグして順序を変更出来ず)

プラグインの管理...

クリップ防止

出力ファイル形式
再生が中止されたが現在の再生が処理をサポートしていません

サウンドを様々なファイル形式で出力できます。例えば、普通の音楽 CD を 5.1Ch サラウンド サンプルレート等に設定する時は、それらの設定に対応したサウンドカードが必要です。

出力エンコーディング (詳細情報)
なし

サンプルレート (詳細情報)
入力側のサンプルレートごとに、対応する出力側のサンプルレートをクリックし希望する値を選択します。右クリックすると一括で変更できます。

入力	出力
44,100 Hz 未満	変更しない
44,100 Hz	変更しない
48,000 Hz	変更しない
88,200 Hz	変更しない
96,000 Hz	変更しない
176,400 Hz	変更しない
192,000 Hz	変更しない
352,800 Hz	変更しない

DSP スタジオ

出力ファイル形式変換
再生が中止されたが現在の再生が処理をサポートしていません

サウンドを様々なファイル形式で出力できます。例えば、普通の音楽 CD を 5.1Ch サラウンド サンプルレート等に設定する時は、それらの設定に対応したサウンドカードが必要です。

出力エンコーディング (詳細情報)
4xDSD DoP 形式 (DoP と 4xDSD に対応する DAC が必要)

アップサンプリング

入力に対し出力を設定します。384kHz まで対応可能です。

サンプルレートは、各周波数別にアップサンプリングの値を設定できます。弊社では、丸め込みの発生しない整数倍でのアップを推奨しています。

例) 44.1kHz -> 88.2K or 176.4K

サンプルレート (詳細情報)

入力側のサンプルレートごとに、対応する出力側のサンプルレートをクリックし希望する値を選択します。右クリックすると一括で変更できます。

入力	出力
44,100 Hz 未満	384,000 Hz
44,100 Hz	384,000 Hz
48,000 Hz	384,000 Hz
88,200 Hz	384,000 Hz
96,000 Hz	384,000 Hz
176,400 Hz	384,000 Hz
192,000 Hz	384,000 Hz
352,800 Hz	384,000 Hz

詳細な説明はメーカーのオンライン説明書をご覧ください。

http://wiki.jriver.com/index.php/Media_Center

JRiver はグローバルで使用されているソフトウェアで、多機能なソフトウェアです。そのため、日々Google chrome を用いた自動翻訳機能を用いて、各国言語に自動変換できるよう、英文表記にこだわって記載しています。MC24 ではほぼ問題ない日本語翻訳が可能となっています。Google chrome でアクセスください。

メーカーサポート掲示板

<https://yabb.jriver.com/interact/index.php?PHPSESSID=0lievtjit7qjpppfg4ab3sp5g1&>

日本語ユーザー情報掲示板

<https://yabb.jriver.com/interact/index.php/topic,114369.0.html>

